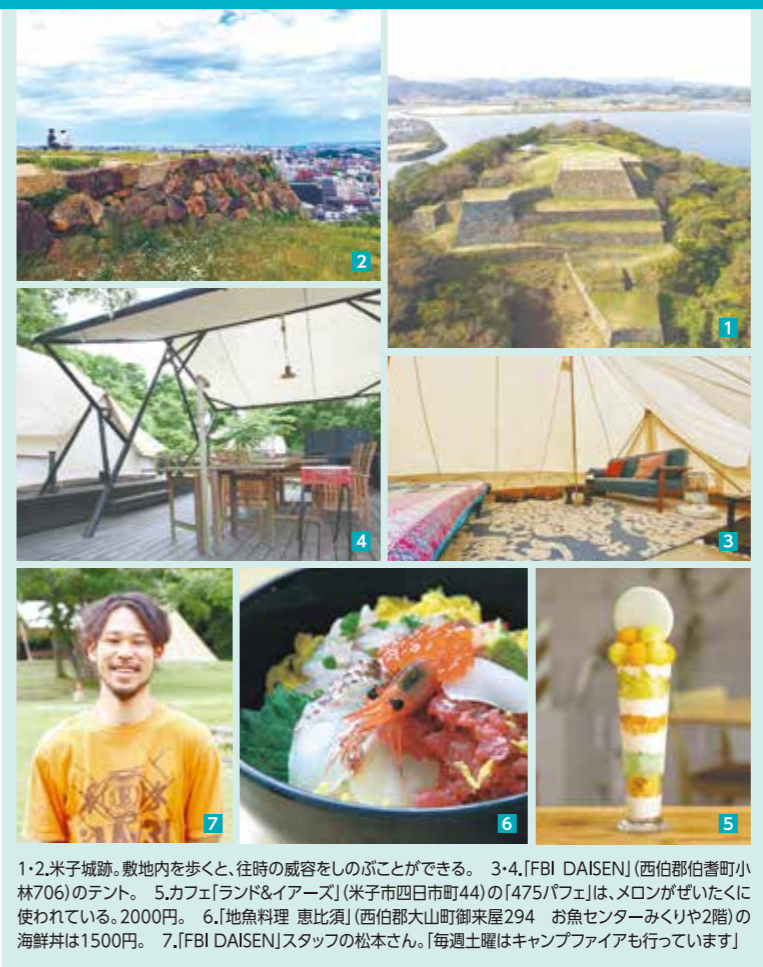


絶景の米子城跡と 伯耆大山を満喫する 夏の鳥取周遊

今年、全国各地の名城を取り上げたNHKの番組で、米子城がその絶景において最強の城に選ばれ、鳥取県西部に注目が集まっています。名峰・大山(だいせん)を借景にしたグランピング施設に宿を取り、食も鳥取らしさあふれるものを味わおう! 絶景の城跡とともに、夏の楽しみが鳥取県西部にあります。

企画・制作 / 中日新聞広告局



1・2.米子城跡。敷地内を歩くと、往時の威容をしのぶことができます。3・4.[FBI DAISEN] (西伯郡伯耆町小林706)のテント。5.カフェ「ランド&イアーズ」(米子市四日市町44)の「475/パフェ」は、メロンがぜひたくに使われている。2000円。6.「地魚料理 恵比須」(西伯郡大山町御来屋294 お魚センターみくりや2階)の海鮮丼は1500円。7.[FBI DAISEN]スタッフの松本さん。「毎週土曜はキャンプファイアも行ってます」

絵になる眺めと、新しい名物

鳥取県の西部は、かつて県中部とともに「伯耆国(ほうぎのくに)」と呼ばれていました。米子城があるのは、その最西部。戦国時代に毛利元就の孫・吉川広家が、居城にしていた島根県東部の月山富田城(がつさんとだじょう)から本拠を移すため、築城を始めたと伝えられています。

本丸など建物は明治時代初期に取り壊され、現在は石垣をとりどめるだけですが、米子市文化振興課の日下部かさねさんによると、この石垣も見どころの一つだとか。「米子城跡では、山麓から尾根に沿って作られた『登り石垣』を見ることが出来ます。これは豊臣秀吉の朝鮮出兵時、倭城に用いられた築城技術で、全国的にも珍しい石垣です」

城跡が位置する湊山の山頂は、標高約90m。麓の公園から石段を上り10分ほどでたどり着く先に、360度のパノラマが待っています。北側の眼下に米子の市街地が広がり、遠くには日本海の水平線。東に望むことのできる大山の姿は、あくまでも雄大です。たとえ夏の陽光が雲にさえぎられても、西側に広がる中海(なかうみ)は、なお鮮やかなブルー。



アクセス Access

車 名古屋西IC→(東名阪)→亀山JCT→(新名神→中国道→米子道)→米子IC(約400km/約4時間40分)

電車 JR名古屋→(新幹線)→JR岡山→(特急やくも)→JR米子(約4時間)

ふるさと鳥取県産業・観光センター
中区栄4-16-36 TEL.052-262-5411
久屋中目ビル5階
https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/

グランピングと、漁港の海鮮丼

鳥取県は近年、豊かな自然を生かしたグランピング施設が充実、宿泊先として人気を博して

鳥取県西部。目にした景色や味わった食事、過ごした時間が思い出される鳥取周遊を、この夏ぜひ。

日下部さんは「どこを切り取っても絵になる眺めがここにあり。アクセスもしやすいですよ」と呼びかけます。*中海:鳥取県西部と島根県東部にまたがる湖。米子の街を訪れたのなら、「475(よなご)パフェ」の賞味をお忘れなく。鳥取県産の素材を使った、米子城天守閣を想起させる五層のパフェは、地元の新しい名物。17の店舗がオリジナルティーあふれる商品を展開中です。

タッフの松本雄太さん。バーベキューでお肉を囲み、腹ごなしに森を駆けた後は、ハンモックで午睡するのも素敵です。晴れていれば、夜には満天の星空が広がります。鳥取滞在では、日本海の幸も欠かせない楽しみ。今回は、大山町の御来屋(みくりや)漁港に店を構える「地魚料理 恵比須」の海鮮丼をいただきました。井には、タイヤゴ(トビウオ)、ヒラマサ、甘エビなど、その日に水揚げされた魚介の刺身があふればかり。絶品の味を求めて、県外から訪れる人も多いそうです。